

シアナミド液剤の利用と光環境改善によるブドウ「クイーンニーナ」の収穫期前進化

1月上旬のシアナミド散布と光環境の改善を行うことで着色が向上、収穫期が約9日前進化し、8月上旬までの収穫率が高まる。

背景・目的

- ・ブドウ「クイーンニーナ」は温暖な本県でも赤色に着色する期待の品種であり、産地への導入が進んでいる。
- ・「ピオーネ」より熟期が遅いことや大房となりやすく、着色不良等の事例が認められている。
- ・休眠打破剤による収穫期前進化を図るとともに、光環境の改善による着色向上を図る。

シアナミドは石灰窒素の有効成分であり、休眠打破剤として広く普及

成果の内容

1月上旬のシアナミド散布で収穫期が前進化、光環境の改善で着色が向上

「クイーンニーナ」の2月中旬にフィルム被覆する作型における収穫期前進化技術

1. 休眠打破剤による収穫期前進化

シアナミド液剤20倍液を1月上旬に散布することで、発芽が約12日、開花が約6日、収穫が約4日早まる。

表 シアナミド散布と生育相

散布時期	発芽期	開花期	収穫期
1月上旬	3/19	5/2	8/8
無散布	3/31	5/8	8/12

* 平成27年～28年の2カ年平均

1月上旬
散布



無散布



発芽期の状況(4月上旬)

2. 果房の光環境改善による着色向上

- ① 遮光率の低い果実袋を用いる
- ② 光が当たるよう着房節の摘葉等を行う

ことで着色良好となり、収穫がそれぞれ約2日、約3日早まる。

表 光環境の改善の方法と着色、収穫期

光環境改善の方法		果皮色	収穫期
果実袋	摘葉等	色票値	
薄袋	あり	3.4 b	8/9
慣行袋	あり	2.9 a	8/11
薄袋	なし	2.8 a	8/12

有意性 **

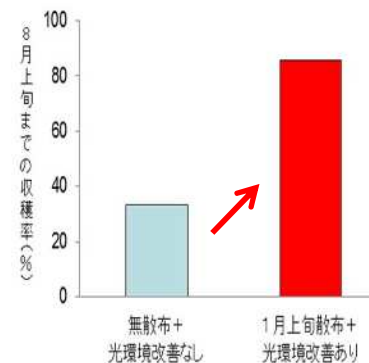
注) 平成28年1月にシアナミド散布した2樹の平均値
有意性: Tukey検定により、異なるアルファベットは1%水準で有意差あり

導入
メリット

休眠打破剤＋光環境改善により色票値の高い果房が得られ、盆前収穫率が高まる

・1月上旬のシアナミド散布に、光環境改善を併せて行うことにより、色票値4の果房となる時期が早まり、収穫が約9日早まる

・高需要期である8月上旬までの収穫率が高くなる



色票値4

期待される効果

・8月上旬出荷が困難な無加温栽培「クイーンニーナ」園において、着色良好な果房の盆前収穫率が向上することにより、高需要期の出荷が安定し、収益性が向上する。

普及対象・範囲
ブドウ「クイーンニーナ」生産者